



坂下みなみ

実りの秋、子ども達は運動に学習に部活動にがんばっています。南小の子ども達は、どの活動にも一生懸命取り組み、苦しくても明るさを失わずにがんばるよさを持っています。南小では当たり前と思いがちな姿ですが、世の中に一生懸命になれない子や、がんばれない子どもが増えていく今、本当に尊い姿だと思います。スポーツでは、結果が全ての勝利至上主義から優勝や一等賞以外を褒めない人もいますが、子ども達ががんばっている練習の姿や、前向きに物事に取り組む姿をたくさん褒めたいと思います。これは、子ども達の生き方につながる姿だからです。

学力調査の結果について

1 全国学力学習状況調査(6年生) 国語科、算数科

国語科	全国平均を上回っている	算数科	全国平均を上回っている
-----	-------------	-----	-------------

2 ふくしま学力調査(4~6年生) 国語科、算数科

この調査は、一人一人の学力の特徴をや変化をとらえて指導に生かすための調査なので、学校全体の平均を比較しません。この調査は本年度から始まったので、変化を比較することはできませんが、以下のような課題が明らかになりました。

- 学年や学級による学力差が大きい内容があったので、校内研修を充実させ互いの課題を補えるようにします。
- 学力の高い子と、伸び悩む子に別れる傾向が出ている学年があり、「学び合い」の学習を進めて、「誰も置いていかない授業」を目指します。

子どもの個性について考えます

最近テレビなどで、「発達障がい」という言葉がよく出てきます。かなり一般的になってきた言葉ですが、まだまだ誤解も多いようなので、このお便りで取り上げてみます。

一言に「発達障がい」と言っても実に多様な現れ方があり、その程度も様々です。例えば、音に敏感なお子さん、落ち着けない子、不注意な子、しゃべり続ける子、人が苦手な子、切れてしまう子…。

実は「障がい」と言うほどではない程度も含めると、全く珍しくない個性です。誰にでもそういう面はあると言ってもよいほどです。例えば、うっかり者、かんしゃく持ち、人見知り…。人は、そういう自分の個性と付き合いながら、うまくやっていく方法を身に付けて成長します。

「発達障がい」の人は、その個性がとても強いのだと思います。例えば、聞くのが苦手な人は、カフェの中にいる全ての人の話が聞こえてきて、目の前の人の話が入ってこなかったり、不注意な人は、どうしても時間の約束が守れなかったりするようです。そうすると、人から「私の話を聞いていますか?」とか「どうして約束を破るの?」とか、叱られてしまいます。聞いていないのではなく、聞き取れないのです。約束を守りたいのにできないのです。

この例ほど重くなくとも、こういう個性で苦しんでいる子はいます。学校では、自分の特長を知って、どう行動したらいいか教えるようにしています。大人になる頃には、「自分は多くの人に中で話を聞くのは苦手だから、静かな所で対話するようにしよう。」とか、「自分は約束を忘れてしまうから、必ずメモして毎日チェックしよう。」と、対応できるようになります。

実は、「発達障がい」よりも怖いのは、できないことを攻撃されて自信を無くしたり、性格が変わってしまうことです。これを「二次障害」と言って、もとの障がいよりも深刻です。引きこもったり、反社会的な行動に走ったりするかもしれません。

学校では、「二次障がい」を防ぐために、早い時期から発達のアンバランスを見取り、その子に合った対応をしたいと考えています。もし、「うちの子は個性が強すぎかな。」「他の子と違うなあ。」「とか「育てにくさを感じる。」「といった悩みがある時は、お子さんを守るために少しでも早く、学校に相談してください。

